

青森県六ヶ所村

六ヶ所村特産品販売所『六旬館』がオープン

各種エネルギー産業や研究施設が集積する^{ろっかしょ}六ヶ所村は『エネルギーの村』としての一面をもつ一方で、古くから、農業、酪農業、漁業などの一次産業が盛んな村です。代表的な農産物として、長芋、ゴボウなどのヤマセ(偏東風)に強い根菜類が生産されているほか、戦後開拓が進んだことで青森県内最大級の酪農地帯が形成されており、牛乳の出荷量は県内で高いシェアを誇るとともに、県産ブランド牛『小川原湖牛』も肥育されています。また、小川原湖周辺ではシジミや天然ウナギ、太平洋ではイカやサケが水揚げされるほか、ウニ・アワビなど希少価値の高い魚介類も六ヶ所村自慢の水産物となっています。

六ヶ所村には、これらの魅力ある特産品が多数あるにも関わらず、それらに「触れる場」「食する場」「購入する場」がないことが課題となっていました。そこで、特産品の一層の販売促進・地域の魅力発信と、村内の農畜水産業者の生産意欲向上を図ることを目的とした特産品販売所『六旬館』が今年4月にオープンしました。

『六旬館』という愛称は村の一般公募により選ばれたもので、「六ヶ所村の『旬』を味わい楽しむ場として、村内外の人々に広く愛される施設でありたい」との思いが込められています。館内には、地元農家から出品された新鮮な旬の農産物が並びます。ヤマセに強い根菜類を中心に、ホウレンソウやブルーベリーなど、季節ごとの旬の農産物が毎朝出荷者から届けられます。施設には大型の生け簀もあり、六ヶ所村特産の

イカ、ヒラメ、アワビやウニなど海の幸の販売にも力を入れています。

売り場には、郷土料理のレシピ紹介や食材の魅力・味わい方を掲示するなど、販売方法にも工夫が凝らされており、「地域ならではの食材の楽しみ方を知ることができる」と、来館者にも好評となっています。オープン以降、六旬館への農産物の出荷量も増加するなど村内生産者の意欲向上にもつながっており、今後の展開が期待されています。

全国的に珍しい取り組みとして、『六旬館』では、他の電源地域と連携した特産品販売にも乗り出しています。村内の特産品を販売するだけでなく、村と長年交流のある茨城県東海村の干し芋をはじめ、全国の電源地域の特産品紹介・販売を試みています。(一社)六ヶ所村観光協会のかとうしんや事務局長は「六ヶ所村で長年親しまれてきた郷土料理や食の魅力を広く伝えていくとともに、食を通じた地域間交流として各地の特産品を味わっていただくことで、他の電源地域の活性化にも繋がれば嬉しいですね。全国各地の電源地域と連携しながら、六旬館を食・観光の交流拠点として展開していきます」と抱負を語ります。

『六旬館』は、村の観光・交流拠点としての機能を併せ持った施設で、館内に設けられた飲食スペース、交流スペースでは、来館者がゆったりと時間を過ごしながら、六ヶ所村の各種情報を得ることができます。地域資源を発信する場として、また地域内外の交流の場として、多くの役割を担う『場』づくりの今後に注目です。(森川)

『六旬館』オープニングセレモニー



『六旬館』の外観



買い物客でにぎわう特産品販売コーナー



食の地域間交流にも取り組む(東海村産 干し芋)

美浜町新庄地区に新たな可能性を開く施設が誕生

美浜町^{しんじょう}新庄地区は、町の中央を流れる耳川の中流から上流域の、滋賀県境に近い緑豊かな中山間地域です。若狭地方から京都へ鯖などの海産物を運んだ街道など、古くからの歴史を持つ地域で、民俗学の世界では良く知られています。

本年4月22日、『新庄里地里山の恵み体感プロジェクト』の完了記念式典が、開催されました。このプロジェクトは交流人口の増加に向けた美浜町の取り組みの一環として、平成27年度から3年間にわたって推進されてきたものです。

具体的には、既存の登山道に加え、新たに5本の登山道を整備し、『若狭路美浜トレイル』として、登山客に人気となっている滋賀県側の『高島トレイル』とつなげました。これによって登山客は日本海側へ降りてくることができ、新庄地区への交流人口の増加が期待できます。

また、『自然体験館・鹿野苑』、美浜町新庄獣肉加工施設『BON 1029』を整備、さらには登山客の拠点となりうる『モミじんパーク』と、

その中心に『Café MIROKU』などを整備しました。『自然体験館・鹿野苑』は松屋地区の古民家を改装して、豊かな自然の中での「田舎暮らし体験」が可能なものとなっています。美浜町新庄獣肉加工施設『BON 1029』は、獣害対策に加えて獣肉を使用した新たなメニューを作り、『Café MIROKU』で登山客等に供することもできます。

このように、これらの施設は、従来からある『溪流の里』や『森と暮らすどんぐり倶楽部』、農事組合法人『わいわい楽舎』などともに、新庄地区の魅力発信が可能となりました。

施設を管理する『NPO法人自然と共に生きる会サンガ』代表の中村俊彦さんは「これらの施設で、山河の恵みをいただく贅沢を都会の人たちに存分に味わっていただきたい」と語っています。

美浜町は、「日本一の体験教育のまち」を目指していますが、新庄地区に、このような「山里体験」の施設が整備されたことにより、交流人口の増加や地域の活性化など、新たな可能性の展開が期待できます。(佐藤)

『若狭路美浜トレイル』の案内看板



美浜町新庄獣肉加工施設『BON1029』



『モミじんパーク』の中心に整備された『Café MIROKU』



『若狭路美浜トレイル』から見た若狭湾の眺望



『Café MIROKU』のメニューのひとつ、『鹿肉のコンフィ』



古民家を活用した『自然体験館・鹿野苑』

青森県六ヶ所村

小川原湖牛コロッケ

問 (一社)六ヶ所村観光協会
 DATA ☎ 0175-71-3115
 URL https://6shunkan.com/

村の若手が開発した新商品

青森県産ブランド牛である『小川原湖牛』は、県内有数の酪農地帯が広がる六ヶ所村と、隣接する東北町で肥育されています。その小川原湖牛を使った新商品『小川原湖牛コロッケ』が誕生しました。

このコロッケを開発したのは、六ヶ所村の若手有志『Rocky Stance』の皆さんです。メンバーは、地域の魅力を掘り起こし、それを磨き上げて発信していくことで地域を盛り上げようと活動を展開しています。「小川原湖牛のおいしさを、より手軽に味わってほしい」との思いで試行錯誤を繰り返し、商品化したのが『小川原湖牛コロッケ』です。

小川原湖牛の旨みとジャガイモの甘味が絶妙にマッチし、大きめの衣によるサクサクした食感も、そのおいしさを一層引き立てます。村内や首都圏での試作品販売でも「サクサクしておいしい」「食べ歩きにぴったり」との声が聞かれるなど、大好評でした。

六ヶ所村の自然に育まれた小川原湖牛と、『Rocky Stance』の熱い思いが詰まったコロッケを、ぜひご賞味ください。



新商品『小川原湖牛コロッケ』



Rocky Stance 代表 橋本 翔さん



販売会で大勢の方にお召し上がりいただきました

鳥取県鳥取市

砂丘らっきょう

問 JA鳥取いなば 福部支店
 DATA ☎ 0857-75-2231
 URL https://www.jainaba.com/

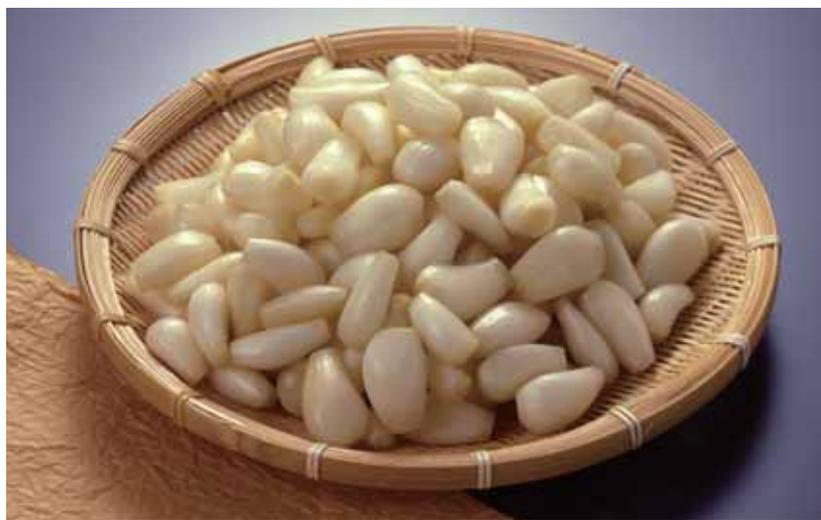
独特の「シャキシャキ食感」

らっきょうは、砂丘や荒廃地などのやせた土地で育つという特性を持っており、『砂丘らっきょう』の産地である鳥取市福部地域は、鳥取砂丘に隣接しています。

この地域で江戸時代から自家用栽培されていたらっきょうですが、大正期に産業組合を設立して生産体制を確立させ、昭和40年には加工事業を設立し、価格の安定化を図るようになりました。

平成28年には、GI認証商品に『鳥取砂丘らっきょう』『ふくべ砂丘らっきょう』として登録され、過去最高の売り上げとなりました。

JA鳥取いなば福部支店長の上原さんは、「保水力・保肥力が乏しい砂丘畑で栽培することにより、『砂丘らっきょう』の鱗片は比較的薄く、シャキシャキ食感が強いのです」と語ります。『砂丘らっきょう』独特の食感を、ぜひご賞味ください。



洗いらっきょう

甘酢
らっきょう

10月下旬にはらっきょうの花が紫色の絨毯のように広がる



温かいつゆにそばを軽く浸す
「新得地鶏南ばんせいろ」



そばの花畑が一面に広がる
「そばロード」

北海道新得町

新得そば

問 新得町役場
DATA ☎ 0156-64-0522
URL <http://www.sobanosato.com/>

そば粉の風味の良さが特徴

昼間は温かく夜涼しい^{しんとく}新得町の気候は、そば作りに大変適しています。

明治時代、農作物を育てるには厳しい気候の中で、新得の町に入植した人々がまず植えたのが、そばでした。それゆえ、新得町開拓の歴史は、そば栽培の歴史であるともいわれており、今では新得町のそば生産量は年間387tで、作付面積は299ha(平成29年度)になります。

新得から狩勝峠へ向かう国道38号沿いに約1.5kmも続くそば畑は、「そばロード」と呼ばれ、夏は白いそばの花が美しく彩ります。

また、そば生産にかかる取り組みや品質等が評価され、全国そば優良生産者表彰にて最高賞にあたる農林水産大臣賞をこれまでに4度受賞しており、名実ともに日本一のお墨付きを得ています。

宮城県仙台市

仙大豆

問 JA仙台 営農経済推進部
DATA ☎ 022-236-2465
URL <http://sendaizu.com/>



宮城県産大豆『ミヤギシロメ』



「ソイチョコ」。6種類の味が楽しめます

宮城復興のシンボル

仙台の大豆で『仙大豆』^{せんだいず}。大豆は、昔から仙台市東部を中心に、沢山収穫されていた農作物でした。

しかし、東日本大震災により、大豆生産者をはじめ多くの農家が被害に遭いました。その後、大豆の生産を再開したことで、「大豆は復興の象徴」となりました。

大豆は食物繊維なども豊富で栄養がぎっしり詰まっています。「畑の肉」とも言われています。そして、「そんな大豆を毎日、美味しく食べてもらいたい、作るだけでなくその魅力を伝えたい」そういった想いから『仙大豆プロジェクト』は始まりました。

『仙大豆プロジェクト』では、他にはない新しい大豆食品の開発を進めており、『宮城県産ミヤギシロメ』を用いたチョコレートである「ソイチョコ」や、クッキーの「ソイコロ」、「ソイフロランタン」、ほかにも「ソイヨーグルト」、「ソイパスタ」など、豊富な品ぞろえを誇ります。



他にはない新しい大豆食品の開発を進めています

新潟県柏崎市

柏崎海水浴場開場130周年



米山を望む東の輪海水浴場



サップに乗っているのは市長です! 番神岬からの夕日



問 柏崎市商業観光課

DATA ☎ 0257-21-2334

URL <https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/kanko/asobu/kaisuiyoku/130syunen/index2.html>

日本海側の海水浴場発祥の地

広く日本海に面している柏崎市には15もの良好な海水浴場があり、県内外から多くの海水浴客が訪れます。その歴史は古く1888年(明治21年)まで遡り、日本海側では最も早いとされ、本年で開場130周年を迎えます。柏崎に海水浴場ができたのは、陸軍軍医総監であった松本順が柏崎の病院に滞在中、海水浴の保健効果について説いたのがきっかけといわれており、「潮(塩)湯治」と称して海水浴をする住民が急増しました。

130周年という節目の今年、柏崎市では、地域の方々と共にビーチに手作りのベンチを設置する『ビーチベンチプロジェクト』や、春や秋も楽しめるアクティビティを提供するイベント『ビーチピクニック』などを企画・計画しており、海水浴だけでなく、柏崎の海の素晴らしさを体験していただけます。皆様のお越しをお待ちしております。

静岡県菊川市

潮海寺八坂神社祇園祭り

【開催日】7月21日(土)~23日(月) 【開催場所】潮海寺

DATA 問 菊川市商工観光課

☎ 0537-35-0936

URL <http://www.city.kikugawa.shizuoka.jp/index.html>

菊川のまちに夏を運ぶ風物詩

ちょうかいじ
潮海寺祇園祭りは永禄年間(1558~1570年頃)、潮海寺周辺に原因不明の病気が流行したため、京都八坂神社にない災厄除去を祈願したのが始まりといわれ、3年に1度、3日間にわたり疫病退散と秋の豊かな実りを祈願し行われます。祭りは上・中・下区の潮海寺自治会330戸余りの住民によって執り行われています。

祭礼では、『お神輿渡御』に始まり、『潮海寺祇園囃子』(市指定無形民俗文化財)もにぎやかに平安絵巻が繰り広げられます。お囃子を盛り上げるのは地区の小学生。屋台の上で順番に小太鼓をたたき、引き回しに華を添えます。

なかでも、屋台が潮海寺仁王門(市指定文化財)前にある約40度の傾斜の石段を下り上りする光景は必見。約30段の石段を二輪屋台が行く様子は実に勇壮で、見守っていた観衆から大きな拍手と歓声が起こり、祭りは最高潮の盛り上がりを見せます。



赤鬼、ホラ貝、太鼓、剣、神輿、屋台が行列する『お神輿渡御』



石段を屋台が下り上りする光景は必見

島根県松江市

不昧公200年祭記念事業

【開催日】通年 【開催場所】国宝松江城周辺
 DATA 問 不昧公200年祭記念事業推進委員会
 (松江市役所観光文化課内)
 ☎ 0852-55-5293
 URL https://fumai kou.jp

200年分のおもてなし

京都、金沢と並んで日本三大菓子処として知られる松江。この地の茶の湯文化を築いたのが松江藩松平家七代藩主 治郷(1751~1818)であり、不昧と号した大名茶人です。今年是不昧公の没後200年を迎えることから、松江では気軽に茶の湯文化を体感できるさまざまなイベントが開催されています。

中でも一押しのイベントが国宝松江城のお堀を巡る「茶の湯堀川遊覧船」。皆さんはお抹茶を点てた経験ありますか? この「茶の湯堀川遊覧船」では、作法など関係なく船内で自分でお抹茶を点て、松江を代表する和菓子を楽しむことができます。船頭さんのユニークなガイドを聞きながらすばらしい水景ものんびりと楽しむ! ぜひお勧めです。

この他にも、お堀に浮かぶ川床での優雅なお茶席など、色鮮やかな和菓子がいただける場所が松江にはたくさんあります。自分へのご褒美に「お茶にお菓子に心おどる旅」はいかがですか? 200年分のおもてなしでお待ちしております。



川床で優雅にお茶席



国宝松江城のお堀を巡る遊覧船



遊覧船では気軽に抹茶点て体験ができる

長崎県松浦市

ほんなもん体験

DATA 【開催日】通年 【開催場所】松浦市内
 問 一般社団法人まつら党交流公社
 ☎ 0956-27-9333
 URL https://www.honmono-taikou.jp/index.php

出会い、発見、感動体験が満載

松浦市では人口減少が進み、また第一次産業をはじめ地域産業が厳しい状況となり、地域の活力が低下していくなか、交流人口の拡大により地域経済の発展や地域振興につなげようとの思いから、体験型旅行の受け入れを行っています。

農家・漁家への民泊受入による自然環境や農林漁業など地域の生業に根ざす体験型観光『松浦党の里ほんなもん体験』を展開しており、漁業体験、農林業体験、味覚体験などその体験メニューの数はなんと80種類! 体験エリアは漁村・農村エリアの13地区で、その受入能力は1日最大1,200名にもなります。地域の皆さん800名が担い手となり、体験旅行の受け入れを行っています。

年間を通して体験受入活動を展開するため、修学旅行に加え、個人・グループ旅行も受け入れています。地域の素朴で人情厚い人々が皆様のお越しをお待ちしています。松浦市での「ほんもの」体験を味わいに、ぜひお越しください。



カゴ漁体験



民泊での食事